



研修視察報告書

令和1年7月25日

〔会派名：無会派〕

代表者氏名	森脇和徳 	記録者氏名	森脇和徳 
視察者氏名	森脇 和徳		
視 察 日	令和1年7月16日（火）～令和1年7月18日（木）		
視 察 先	北海道 豊富町・稚内市		
目 的	・温泉と自然を生かした観光とふるさと産品を使ったまちづくり ・過疎地医療の現状と課題解決への取り組み		
視察概要			
豊富町			
<p>豊富町では豊かな自然の恵みとともに、人が営んでいるように思えた。酪農業やジビエなど6次産業につなげる努力も垣間見えた。海産物もあり大きな漁港ではないが近海で獲れる新鮮な海の幸を出荷しているようだ。ふるさと納税に地場産品を出荷しようと試みるが、そこは自然が生み出す産物であり、数量調整に苦慮している事が分かった。</p> <p>石油採掘目的で偶然に噴出した温泉は奇跡の湯と呼ばれるほど肌によく、医療控除も認められる湯治としての治療目的で訪れたり滞在したり移住をする人もいる。同時に健康指導や長期滞在者へのケアも行き届いており温泉が町にもたらす効果は絶大だ。滞在から交流人口の増加へと切り替えて豊富温泉の良さをPRすることに努めているようだ。</p> <p>当市でも、豊かな自然環境から生まれる産物などを組み合わせることにより、まずは交流人口を増やしつつ、滞在型の観光へもターゲットを絞るべきだと感じた。</p>			
稚内市			
<p>稚内市では、大変厳しい医療過疎の現実を感じた。当然にして病院経営は赤字決算が毎年のように続いているが、市長や執行部さらには議会からも「仕方ない」のため息しか聞こえてこないのが現実のようだ。内部留保資金が底を尽きかけており一時借入金で凌ぐか一般会計からの繰り入れを増やすか考えているとの事であった。二次救急病院の道北地方の砦として離島地域を含む医療を一手に支えているように見えたが、医師不足がこれ以上ひどくなれば、この地域で人口減少や若者や子供を育てていく事が極めて困難であろうと感じた。「医療過疎地イコール人口減少」は、分かり切った事である。恐ろしい事は、町の診療所までもが、廃業していく件数の多さである。市の本体の予算を脅かす病院会計繰出金は、この際に惜しまず出しながら地域医療の立て直しに力を入れて、人が暮らしていくに欠かせない医療を充実させて安心ですみよいまちづくりを形成する必要があるように感じた。</p> <p>当市でも、産科設置が公約されている。一向に進まない市立病院の改革であるが、地域医療や二次救急の崩壊だけは絶対に避けなければならないと確信した。</p>			

